

# 会報 しんせき 第21号

平成24年6月2日  
発行責任者  
新聞コミュニティ協議会  
会長 瀬戸範彦

笑顔いっぱい 元気いっぱい 夢いっぱい

新聞コミュニティ協議会：新潟市秋葉区下新364-1 TEL0250-47-4640

(新聞コミュニティ協議会の活動は、新潟市の助成を受けています。)



## ご当地ソング完成発表会

5月19日 (土) 参会者約250名 感謝！  
地域住民・小学生児童・関係者ら小学校体育館に集う

**御 礼**  
新聞コミュニティ協議会会長 瀬戸範彦

この度のご当地ソング「ふるさと新聞」完成発表会は、新聞小学校の体育館をお借りして開催いたしました。おかげさまで、当初の予想をはるかに超える多くの皆様からご出席を賜り、歌の完成を祝っていただきました。ご来賓の皆様、歌づくりにご尽力をいただいた皆様、地域の皆様、新聞小学校の職員をはじめ児童の皆様から感謝申し上げます。

特別ゲスト司会者としてお招きした大倉修吾さんの名調子、そして、歌手の植木利衣さんとのトークも絶妙で会場は大いに盛り上がりました。私達はこの「ふるさと新聞」を地域の応援歌として皆様により親しまれるよう諸行事等に活用していきます。

今後とも一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。御礼のご挨拶といたします。

## 新聞小学校大運動会 (ふれあい運動会) 5月26日



「ふるさと新聞 はじける笑顔 心を一つにがんばろう！」  
素晴らしいスローガンだと何回も振り向いて校舎を見上げました。今年、出来立ての「ふるさと新聞」を初めてみんなで踊りましたが、よくぞここまで短時間にマスターできたと感じました。子どもたちはつらつとした元気な姿に、保護者や地域のみなさんも大きな声援を送っていました。

## 自主防災訓練 (6月12日)

### 児童の安全な登下校支援を考える

新聞コミュニティ自主防災組織による今年度の自主防災訓練は、災害時における児童の安全な登下校を支援するための模擬訓練を行うことにしました。

新聞地域は、集落が点在し学校までの通学距離も長いのが実情です。災害が発生した場合は、学校は保護者に直接引き渡すことが原則ですが、災害の規模や状況によっては教師の付添いで集団下校も考えられます。しかし、地域の状況(道路や環境等)を知っているのは地域住民です。

今回の訓練から新聞コミュニティ自主防災組織と学校、地域(自治会)の三者が連携した児童の安全な登下校を支援する体制を考えたいと思います。

# 発表会会場スナップ

◎ 迫力ある「生の歌声」

◎ あでやかな踊り

◎ 響く合唱 元気を踊り

◎ 笑顔いっぱい

◎ 夢が広がる 心がはずむ



◇ 植木利衣さんの熱唱と  
振付者SANのみなさんの踊り



歌唱指導をする作曲家の関根正英さんと歌手の植木利衣さん



◇ 「面白く・楽しく・笑いいっぱい」、大倉修吾さんの名調子で会場が盛り上がりました。



会場のみなさんも一緒になって

◇ 大倉さんは、ご自身の曲を2曲も披露してくださいました。「ふるさと」にちなんだ曲で、今回の発表会のために用意して下さったようです。



「ふるさと新関」を踊る  
◇ レクダンスのみなさんと一緒になって子供たちも踊りの輪に。野球のユニホーム姿がまた何とも言えません。



◇ 小学生も壇上へ大倉さんの質問攻めにもあわず騒がず自然体で対応。大いに笑わせる。



◇ 祝賀会にも大勢の方々からご出席をいただきました。  
◇ 大倉修吾さんや歌作成関係者も祝杯を挙げてくださり感謝いたしました。



## 小学生6年生が寄せてくれた

### 歌の感想文です

子供たちから笑顔と元気と夢、そして力をもらいました。この感想文は、私たち新関コミュニティ協議会の励みとなります。ありがとうございました。

「ふるさと新関」の歌を作ってくださいありがとうございます。ほくが好きな場所は、この歌に出てる「笑顔いっぱい」「元気いっぱい」「夢いっぱい」「力いっぱい」のところで、この歌を歌うと「元気がでてきてとても楽しくなります。みんなが歌えて楽しくなるように四季を入れたりして工夫したことがよくわかりました。これからも「ふるさと新関」を歌い続けたいと思います。

歌詞だと思いました。

6年 阿部凌大

6年 荒川康生



翌日の20日、少年野球の子供たちに出会ったので、今回のご当地ソング完成発表会の感想を聞いてみました。

「すっこく面白かった。」  
「超 楽しかった。」  
「おばあちゃんが久しぶりに大笑いしたと言っていた。」  
「踊りも楽しかった。」 等々